

令和4年度 長井市振興審議会専門部会（総務・産業・建設部門） 議事録

開催日時：令和4年8月29日（月） 午前10時00分～12時00分

開催場所：長井市役所市民防災研修室

出席者：17名（委員6名、事務局11名）

■振興審議会委員 寒河江忠委員、加藤眞佐夫委員、井上榮子委員、鷺見孝委員、梅村律子委員、長沼真知子委員

（出席6名、欠席3名）

■事務局 齋藤環樹副市長、竹田利弘政策推進監、青木邦博技監、新野弘明総務参事、赤間茂樹産業参事、小林克人建設参事

総合政策課 渡邊恵子課長、佐々木真一総合戦略室長、安部惇士主任、四釜亜美主事、本間

【次第】

- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 部会長選出
- 4 協議
（1）第5次総合計画の総括について（資料1，資料2）
（2）その他
- 5 その他
- 6 閉会

【議事録】

1 開会

2 あいさつ

○齋藤環樹 副市長

お忙しい中、ご出席いただき感謝申し上げます。令和6年度から長井市の指針となる第6次総合計画策定に向けて取組をすすめている。先週も中央、豊田、平野での地区のワークショップや教育・厚生部門の専門部会を開催しご意見を頂戴した。本日は、総務・産業・建設部門の専門部会ということで、5次総の総括を中心に多くの皆様からご意見やアイデアをいただければと思う。

3 部会長選出

事務局からの提案により長井市振興審議会職務代理者である加藤委員を部会長に選出。

4 協議 座長：加藤部会長

（1）第5次総合計画の総括について（資料1）

資料1について事務局から説明を行った。

（委員）

DXについては、事務局がペーパーレスで参加しているように、この1年でだいぶ進んだ印象を受ける。我々民間もうかうかしていただけないと感じた。

関係人口の創出拡大については、アルカディア観光局も携わっており、産業振興拠点タスについても自身が代表をさせていただいている。それぞれ密接に連携しながら、関係人口拡大、人の呼び込みによって、首都圏のお客様を長井市周辺に呼び込んでいる。資料1のP9のiiの部分から

線にしているところを面にしていき、様々な人を呼び込む仕掛けが肝だと思うので、観光局も意識している。

(部会長)

関係人口について委員から意見いただいたが、農業からみて、新規就農など収益面や生活するという意味で何か意見はあるか。

(委員)

新規就農はとても大変。今年地域おこし協力隊の隊員として一人新規就農がいるが、まず慣れていただいて、定住してもらうことを目指している。市の支援のみで若い人材の定住は難しいと感じている。また、高齢の農家の方が増えてきており、世代交代を途切れさせないように、大切な農地を守っていきたい。

P2について、人口が減っている中で、長井市の財源を維持していけるのか心配している。

(政策推進監)

歳入、歳出ともに増えているのは、コロナの交付金やふるさと納税が要因である。ふるさと納税の財政の仕組み上、伸びが大きく見えている。また、公共施設の整備を進めているが、例えば、新庁舎は5つの支援制度を使っており、長井病院についても、国交省と国から支援を頂いている。このように補助事業を活かして、後々の財政負担を考えながら財政運営を行っている。ご理解いただきたい。

(委員)

補助事業を活かしていることは素晴らしいことだが、委員が言われた、人口減による財政への影響を伺いたい。

(副市長)

市税の収入は市民税や固定資産税があるが、大きく変化はない。また、他の財源として地方交付税があるが、これは以前より若干増えている。今後も様々な制度や仕組み、ふるさと納税などを活用していく。

(委員)

男性と女性では年代別の社会増減が異なると思うので、P2の年代別社会増減の表に男女別の数値を挙げるなど、ジェンダー統計を大事にしてほしい。置賜の中でも、長井市は女性が踏みとどまっているなど良い点があれば、県内の他市町村との比較の表を入れてもらいたい。長井市のSDGsの「人口減少に歯止めをかけ、『子育て世代』の定着を目指す」という目標のために統計をしっかりと入れて総括すると、今後やるべき取り組みが見出せるので、統計をしっかりと入れていただきたい。

二点目は、財政について、資料2の最後にあるような財政計画を明確に市民に示していくことが大切だと思う。

三点目は、農業の新規就農者について、去年の新聞報道によると、東北で女性の新規就農者が増えているようで、トイレ等の就業環境を整えれば女性の就業者が増えやすいようだ。長井市でも以前菊芋を商工会議所と取り組まれていたが、長井市でも農業の点で大学と連携など、何かできないか。

(部会長)

統計はやはり必要なのでつけてほしい。また、菊芋に関しては農業の難しさを感じる。梅村委員は、今までの話を受けていかがか。

(委員)

資料を拝見し、自分も含め当事者意識をもつことが大切だと感じた。

また、商業について、婦人服を主に売っているが、長井市にはOLさんが少ない。女性がもっと活躍できる企業や仕事があれば、女性の人口増加につながると思う。例えば、福祉分野を重点的に取り組んでいくなど、女性に限らず若い人が働く場が増えるといい。別の話になるが、山辺町であ

ればニットや鶴岡市であればシルクと特色がある。長井市でも人や文化を核にして、戦略的に「長井市といえばこれ」という何かをほしい。

(委員)

特色では、花作大根、行者菜、レインボープランなど全国の新聞を賑わせてきたが、その後がよくわからない。追いかけてみるのもいいのではないか。長沼委員いかがか。

(委員)

実際に子どもの見守り端末を使用しているが、これを DX のところに記載してはどうか。親としては大変役立っている。また、先日の豪雨災害での避難所の混雑や対応はどうだったのか。

(総務参事)

中央地区では、長井市役所や長井南中学校、ケミコンの体育館が避難所だった。市役所が最も多く、約400名が避難。市内全体では約1000名の方が避難された。この規模での避難の経験が無く、備品の不足など多くの課題が出た。こういった課題を早い段階でまとめていきたい。

(委員)

ふるさと納税が増えているということだが、一時よりは少し減った印象がある。ふるさと納税返礼品に参入する事業者も増えてきて、自社では市役所のみでなく、百貨店からお話をいただくこともあった。お問い合わせをいただくこともあり、ふるさと納税で知って購入するという方もおり、自社のアピールにもつながるので、活用することは大事だと感じた。

(委員)

先ほど、女性の目線というお話があった。ライフルホームズ総研が出している「地方創生のファクターX」を見ると、山形県は「女性の活躍が低い」「山形県は出ていった人が帰ってこない」など、全てにおいてネガティブなデータが多い。日本総研の調査では山形県は幸福度9位だが、本当にそうなのか疑って見ている。「地方には仕事がない。給料が安い。だから若者が帰ってこない」と言われているが、地方は男社会・長老社会で、「早く結婚しろ」「子どもを産め、仕事はするな」などの同調圧力が強く、一旦都会に出た女性は戻りたくないと思う。明るい生活や楽しい生活が想像できないから、一旦出たら二度と戻ってこない。これをどう改めていくか、長井市のグランドデザインに組み込む必要があるのではないか。女性や若者が活躍できる社会、明るい未来が見えないと人は戻ってこない。

東根市は唯一人口が増えている市で、そこには長井や他のまちとは違う施策があると思う。日本全国の若者が増えているまちは、女性や若者が活躍している。そこには文化、芸術を通して交流する場がある。イベントや展覧会があり、そこにアーティストが来た時に、アーティストが人を連れてきて、人が集まる場ができる。そのようなことを継続してやっていくまちの姿勢が、広がりにつながる。長井市にも検討いただいて第六次総合計画に盛り込んでいただきたい。

(部会長)

女性が安心して子育てができる場が無いからこそ、どこのまちも人口減少が進んでいると感じる。逆に、そういう場があれば女性の方が住みたいと思うのではないか。

以前、飲食店のオーナーから意見を頂いた。コロナ禍で大変な被害を受け、お店を辞めようかという方がたくさんいるとのこと。長井に限らず、周辺地域が一緒になって、アルカディア観光局や商工会議所、行政で、観光客を増やすような委員会を立ち上げてほしいというものだった。

(委員)

人を呼び込むのは我々観光局の仕事で、一生懸命やっている。一方で、一軒一軒のお店に人が入りたくなるような魅力があるかということ。特に首都圏から来る観光客は目線が高いので素通りされてしまう。長井市のお店に魅力があるかということ、一概にはそうは言えないと思う。

(部会長)

今後どのようにしていくのかがビジュアルとして見えないので、飲食店の方は不安なのだと思う

ので示して行ってほしい。

(委員)

前回の振興審議会で、市長が男女共同参画基本計画を踏まえて第六次総合計画に積極的に取り組んでいきたいと仰っていた。難しいとは思いますが、色々手を打っていけば必ず変わるものだと思うので、ぜひよろしくお願ひしたい。

(1) 第5次総合計画の総括について(資料2)

資料2に沿って、事務局から説明。総務・産業・建設部門の基本目標ごとに意見を伺った。

○基本目標3について

(委員)

長井市が重要文化的景観に登録されているという項目はどこに反映されているか。

(事務局)

こちらに入ってくる項目になるので、反映させたい。

(委員)

観光産業の目玉として、重要文化的景観は全国でも限られているので、ぜひ実効性のあるまちななればよいと思う。

○基本目標4について

(部会長)

地域資源とはどのようなものがあるか。

(産業参事)

観光で言う「資源」には三段階ある。例えば、川等その場所にあり活用していないものを「資源」。川に掃除や草刈り、泥上げ等人の手を加え、梅花藻がいっぱい咲くようになり、住民の憩いの場所として維持している段階にいくと「地域資源」となる。それを見に人がいっぱい来るようになると「観光資源」になる。このような三段階で考えている。産業分野では、このような長井特有のものを長井の地域資源と言っている。

(部会長)

長井市では毛細血管のようにバスが走っているが、白鷹町や飯豊町など周辺地域へのバスはアルカディア観光局で考えているか。

(委員)

行政がやるものと考えている。アルカディア観光局では、一つのまちでは観光資源が少ないのでまちの境界は考慮していない。長井エリアは二次交通がフラワー長井線しかなく、バスも便数が少ないので移動が難しい。この課題をどうやって解決するか。今のところ車での移動しかないので、車で移動する際に、このまちに何があるのかという情報の整理を今行っている。移動問題は長井市だけでなく、どのまちも問題としてあると思う。

(委員)

長井市で飲食店に対して、コロナ対策の認証はしているか。認証のマークを見ると安心して店に入れる。安心して飲める、食べられるというのはウィズコロナのなかでは一番大切だと思う。

(産業参事)

県で認証しているのが2種類あり、長井市独自のものとして「おたがいさまネットワーク」があ

る。携帯の情報を使って、万が一感染者が出た場合にいち早く感染の可能性があるところと人に連絡をするという仕組み。国からのコロナの交付金で、ほとんどの飲食店では空気清浄機、除菌できるようなエアコン、アルコール消毒、アクリル板の仕切りを入れており、そういった面での感染対策はできている。

(委員)

産業振興はどこの分野も地方は難しいと思うが、長井市はDXを積極的にやっており、若いこれからの時代の人達に長井市はきちんと方向性を示している。難しいことはたくさんあって、コロナでマイナスのこともたくさんあるが、テレワークなど働き方は見直しが進んでいる。長井の観光資源を活かしつつ、いろんな面でDXを進め、コロナで生まれたチャンスを活かしていると思うので自信を持ってやってもらいたい。

(部会長)

コロナの給付金で企業への補助を受けた。そういった補助が各事業者で活かされているかという点も税金なのでチェックがあるべきだと思う。

(委員)

農業分野については的確にまとめていただいている。集積・集約は8割進んでいるが、残りの2割が進まない。耕作に不便であったり山に近く獣害があったりということが要因としてある。総合的に解決する道筋をたてていただきたい。

(部会長)

かつて南中付近の田んぼはきれいに整備されていた。スーパーなどが建てられたのはなぜか。

(委員)

市で開発計画を立てやすい地域なのだと思う。学校、病院、駅の半径何メートル以内だと農地から宅地に変更しやすいというものがあり、開発しやすいのと思う。

○基本目標5について

(委員)

移住・定住する方への施策や補助金等どのようなものがあるか。

(総務参事)

首都圏で仕事をしている方が、山形県内に移住する際、マッチングサイトに掲載されている企業に就職すると60万、家族の場合は100万、さらに18歳未満の方がいればプラス30万、最大130万の移住支援金の制度がある。昨年度からは、マッチングサイトを利用せずとも、長井市に移住し、東京の企業にリモートワークで勤める方も該当するようにした。今年度は実績として一件の事例がある。また、長井で空き家を見つけてリフォームする際の補助金などの支援策もある。県の制度で移住してきた方へ米、味噌、醤油の給付などもある。

(委員)

あくまでも山形県外の方が該当するののか。

(総務参事)

移住支援金に関しては、リモートワーク含め首都圏に通勤している方が該当。

(建設参事)

市外からの転入者について、新築した場合には新築補助金・定住促進補助金と、市内と市外で差をつけて施策を行っている。住環境の整備ということで、みずはの郷 midori など定住促進に向けた宅地開発を行っている。財源も含めて今後の計画を検討している。

(委員)

移住した場合の賃貸住宅への補助はあるか。

(建設参事)

賃貸については今のところ制度がないが、他市の状況を見ながら検討が必要だと考えている。

(委員)

私事だが、次女が結婚し南陽市に住んでいた。子持ちで長井市に移住すると定住促進住宅が2万円弱で借りられるということで、長井市に移住した。非常に良い制度だと思う。

(委員)

個別施策の上下水道の成果指標「生活排水処理施設の人口普及率」が進まない原因は何か。また、公共交通のところで、6.1回で達成度が「B概ね達成」となっている理由はなぜか。

デマンドバスについて、買い物難民や病院に行けない高齢者にとって大変ありがたく、今後も進めていただきたい。フラワー長井線についても、乗客となる高校生は減っているが長井市が中心となって周辺の地域と連携して維持していただきたい。長井駅の駐車場が整備されたことによって、利用者が増えたなどのデータはあるか。

(建設参事)

上下水道の「生活排水処理施設の人口普及率」については、令和元年度に五十川地区で新たに突貫地域ということで下水道の工事を進めたが、予定通りの加入率にはならなかった。原因は単独浄化槽から合併浄化槽への切り替えが思うように進んでいないことや、そもそも汲み取りではないため下水道に加入しなくても生活に満足している点が考えられる。今後も加入促進の呼びかけを行っていく。

(総務参事)

フラワー長井線については、令和2年度はコロナの影響で利用者は40万人を切っている状況。令和3年度は少し盛り返したが、約42万人にとどまっている。観光の利用も減っているが、高校生の通学利用も減っている。しかし、庁舎建設により通勤利用は増えたと感じている。

長井駅の駐車場を整備したので、駅を利用して出張に行ける環境はできている。現状はコロナで出張自体が少なく、そういった利用が増えているという数字はないが、今後調査していきたい。

(委員)

南中付近の開発が進んでいるが、中道・花作町は用途指定を受けているため、農林予算が入らず農道の整備や水路の管理がされていない。農業者としては、農地を荒らしておくわけにいかず不便でも何とかしているようだ。地主からしても都市計画区域で、将来宅地になるからしょうがないということで、余計な税金を払っている。市の開発として、南に広がっている傾向があるが、中道・花作町を置き去りにしないようにしていただきたい。

(技監)

長井市ではコンパクトシティを目指している。中心部の都市機能を集約して使いやすいまちにし、その周りを住居で囲むというのがコンパクトシティの考えかた。現在は市役所を中心にハードの整備を進めている。次は、その周りをどのようにして住居地域にするということが課題になる。長い目にはなるが、当然、中道・花作町は住居エリアに入っているのを見捨てるということはないので、ご理解いただきたい。

(産業参事)

農地に関連して言えば、南側の開発が順調に伸びているのは、土地改良事業を以前していたため土地が区画され整備されている。一方、中道・花作町は土地改良事業をしていないため、四角の田んぼ、畑がなく、河川も曲がっているという状況。そのため民間が手をつけにくいことが開発が進まない理由として考えられる。土地改良事業をすると法的には8年間に変更することができない。

いずれ宅地開発するために土地改良をするわけにもいかないので、政策的には難しい状況。

(事務局)

井上委員に質問いただいた、公共交通の成果指標について再度確認する。

○基本目標6について

(委員)

レインボープランの再構築について方向性を具体的に教えていただきたい。

(総務参事)

レインボープランは食卓と畑の循環ということで、生ゴミをコンポストセンターで堆肥化し、野菜を作って食卓に戻すという循環をさせてきた。生活習慣の変化による生ゴミの減少やコンポストセンターの老朽化、維持管理費など課題が多くある状況。現在方向性を見直しを行っており、エネルギーの循環ということで生ゴミと下水道の汚泥を利用したバイオマス発電の検討を環境省の補助事業を活用しながら進めている。レインボープランの理念を残しながら、循環の方法をバージョンアップする方向で進めている。

(委員)

家庭の生ゴミの参加率が少ないということは。

(総務参事)

レインボープランを始めてから20年以上経っているので、世代の変化や生活習慣の変化によって、始めた当時と比べると参加率は低下している。

(委員)

老朽化した施設は使えないので壊すしかないということか。

(総務参事)

コンポストセンターは20年以上経ち施設自体も老朽化している。今のところ攪拌するパドルをなんとか使っているが、故障すると大きな費用がかかり、部品も無いということで維持管理が大きな課題となっている。

○基本目標の7、8は資料1で扱ったため割愛

(2) その他

5 その他

事務局より、資料や案内の送付のペーパーレス化についてアンケートの協力を依頼した。

6 閉会